CUBAPONニュース

日本キューバ連帯委員会

http://ifcc1985.com/cubapon/　**郵便振込口座**　0017-2-195919

No.51
2016年
6月

東京都新宿区山吹町333辻ビル405
IFCC気付
TEL : 03-3268-4387
FAX : 03-3268-6079
E-mail　jvccp@rmail.plala.or.jp

2015キューバ友好訪問団

● 2015年11月20日~27日

キューバの「今」を体感

CUBAPON結成20年の節目となった2015キューバ友好訪問団は、アメリカ合衆国との国交回復で世界的に注目を集めているキューバの「今」と新たなチャレンジを見つめる旅となりました。

稲作支援プロジェクト終了にあたり「評価式」で成果を確認

君島団長（CUBAPON代表委員）以下9名の2015キューバ友好訪問団は、11月21日キューバに到着後、ハバナ市内を見学、翌22日、早朝便で青年の島に渡り、一足早く現地入りして農業指導にあたっていた菊田仁さんと合流し、支援事業地の見学や農業従事者との交流と併せて、足掛け8年取り組んできた稲作支援プロジェクトを終了するにあたり「評価式」を開催しました。

青年の島では小学校やポリクリニックも見学し、キューバが革命以来、どんなに厳しい状況にあっても守り抜いてきた「医療と教育」の現場をじかに見ることができました。また、島で一番美しいと言われているコロニー海岸散策や、第二次世界大戦のとき多くの日系人が敵国人として収容され、また革命前夜にはカストロ兄弟をはじめとする革命家が収監された歴史のあるモデロ監獄を見学しました。

島での2泊3日の行程に、宮沢ノボルさんはじめ日系人会の友人たち同行し全て順調に取り計らってくれたことも報告しておかなければなりません。

米プロジェクト評価式（青年の島ICAP施設にて）

24日早朝、青年の島から本島に戻り、その足でサンタ・クララに向かい、革命勝利を決定づけた列車襲撃跡やチェ・ゲバラ廟などを訪ねました。

翌25日はICAP（諸国民友好協会）、CTC（キューバ労働者中央組織）を訪問し、キューバの現状と課題について意見交換を行いました。アメリカ合衆国との国交回復によって新たな課題も出てきている中で、アリシアICAP副総裁は「まだ経済封鎖は続いている。連帯をさらに強めてほしい」と訴え、またフレイディCTC国際局長の「経済発展と同時に社会主義路線の前進を勝ち取る。これはチャレンジだ」との言葉が印象的でした。

その夜、是永レイコ邸での夕食会にフレイディ局長とアリシア副総裁も駆けつけ、さらに懇親を深めました。

フレイディ局長、アリシア副総裁と談笑する君島団長

今回、特に感じたのは、CUBAPONが結成から20年で築いてきた友好の広がりと絆の深さです。日系人協会、CTC、ICAPとの友好の温もりを胸に、26日、帰国の途につきました。

経済封鎖下を生きる カリブの社会主義 XVII

2016年版

好評発売中！（頒価800円）

第２回教育視察訪問団

● 2016年2月13日~21日

教育現場にキューバ社会の礎を見る

第二回 教育視察訪問団 団長　越川　求

2012 年 12 月に結成されたキューバ教育研究会（略称 CKK）はキューバ諸国民友好協会（ICAP）に登録されている友好団体です。2013 年の第 1 回視察に続き、2016 年 2 月 13 日から 21 日まで、２度目の「教育視察訪問」を実施しました。事前に結団の会を開くなど周到に準備を進めてきた大学教員、中学教員、元教職員、学生、クバポン関係者、計 10 名の団で、充実した内容で元気に旅をしてきました。

今回の訪問では、主に青年の島の小・中学校訪問と教育学部・教育大学での教員養成に関しての聞き取り調査を行いました。

青年の島ヘロナ市内のホスエ・バイス・ガルシア小学校とホセ・ラファエル・バローナ中学校を訪問しました。ひとなつこくフレンドリーな子どもたちから人間らしさが伝わってきました。ふだんの生活や学校で人間と人間の信頼感や安心感でつつまれているのかなと思いました。教育システムや授業内容・方法も競争的でなく、「学校はすべての子どもの成長のために」という正当なことが実現されているようです。物的条件は決して恵まれているとはいえない状況でも、すべての学校に歯医者・歯科診療室の設置が図られているなど、手厚い教職員の配置の中でボトムアップした教育、学力でいえば結果の平等を実現している教育のあり方から学ぶ点は多いと思います。

教員養成大学では、青年の島のカルロス・マヌエル・デ・セスペデス大学とハバナのエンリケ・ホセ・バローナ教育大学を訪問し、長時間お話を聞かせていただきました。

「教育と医療を一番大事にする」という大原則がキューバ社会の共通理解になっています。熱意ある教職員と学生、地域住民の代表が学校運営を担っており、絶えず現場の意見を反映して改善されていました。日本の教員養成は、個々の学生や教員により負担をかけ、教員をめざすポテンシャルを低下させる方向で改革が進んでいます。これに対し、キューバでは、大学の授業料無料が前提で、すべての大学生に奨学金が給付され、教員を目指す学生はさらに条件を良くしています。男性は 65 歳から年金が支給されるが、そのままの額で年金を受け取りながら教員を続けている年配の方が多いそうです。年齢を重ねても働ける勤務条件と、年齢が高いほどベテランとして活躍でき、収入も増加するシステムは、いままでの私たちの常識にはない発見でした。日本の「一億総活躍社会」とは、格差を拡大し、弱いものは弱いものなりに必死で頑張れという政策です。キューバでは、社会的に弱者とよばれる立場の人が、より生き生きと生きられる社会をめざしたものであり、そんなことを教員社会から実現しているのかなと感じました。

（3 面に続く↗）

見た★聞いた★学んだ 学校視察

報告集2016 ただいま編集中

予告！

第２回教育視察訪問団では今年８月、「キューバ教育研究会調査報告集 2016」（頒価 500 円予定）の発行を予定しています。

詳しくはその報告集を見ていただければと思います。

昨年暮れに亡くなられたキューバ教育研究会副会長の松矢文男さん（クバポン事務局長）に対していかにキューバのみなさん、とくに青年の島の方々が信頼と愛情を持っていたかを強く感じた旅でもありました。「友好の家」の建設予定地も見てきたし、青年の島の ICAP での子どもたちとの交流会も忘れられないものとなりました。

最後に、団のメンバーおよび添乗・通訳も精力的にこなしてくれたクバポンの村上さんに感謝を申し上げます。今回訪問したメンバーから「３年後もみんな一緒に、他の人も誘って３回目の訪問団を実現しよう」と提案され、了承したことを報告いたします。

石に刻まれた永遠の友情

青年の島２日目。上河ヨシコさん宅で豚の丸焼きの夕食を頂いていると、島の日系人協会の強力なサポーターであるエステバンが遅れてやってきた。

いつもの気さくな笑顔はなく、布で覆った包みを大事そうに小脇に抱え、緊張した面持ちで前に歩み出ると「ちょっとみんな、聞いてくれ」と切り出した。

「この場を借りて話したいことがある。ここに私たちの友人であるマツヤがいないのは寂しいことだ。彼はチェのような人だ。国際主義者だった」と言って、手にしていた包みをほどき取り出したのは艶のある黒い石に彫られた松矢さんのレリーフだった。「だから、裏にはチェ・ゲバラが彫ってある。島の日系人協会から友情の証として彼のご家族に届けてほしい」と言葉を継いだ。

「島に行ったらね、ヨシコさんちで豚の丸焼きを食べてほしいんだ。彼女には俺から頼んでおくから」と言っていた松矢さん。彼がセッティングした、まさにその場所で松矢さんは私たちを待っていたのだ。レリーフの中から微笑みかける松矢さんは、「豚の丸焼きは美味いよね。それに島のみんなも最高だよ」と語りかけているような気がした。

後日、訪問団の事務長、白石さんからレリーフを松矢さんのご自宅に届けたとの報告があった。ご家族の皆さんも大変喜んでいらしたとのことで、私たちも心から嬉しく思う。

トリニダの空に 松矢さんを想う

昨年 12 月、松矢先生の訃報に接したその２日後、キューバの世界遺産トリニダの映像が TV で流れた。あのひなびた石畳、キューバ特有の赤土を目の当たりにし、「私、チチさんのお家（トリニダの焼き物のお店）にもう一回行きたいです」「じゃ、今度行った時に寄りましょう」、こんな会話はもう出来ないと気づいた。そして「あぁ、松矢先生は本当にいないんだ…」このことがこみ上げて来て目がうるんだ。

家族からは「新車１台、買えるでしょう！」などとからかわれながら、夫とともに、２度、キューバを訪れた。海外旅行に行くのに、何で子どもの学用品や生活用品をお土産に持って行くんだ？と、自分でも疑問に感じたこともあったが、彼の国を知るにつれ、垣根が取れていった。

「フェスティバルのチケット、何とか売らなくっちゃ」、「ケーキ焼いて儲けなくっちゃ」と必死になったことが走馬灯のように浮かんでくる。

キューバイコール松矢先生、と思いがちだが、坂戸中学校時代の４年間、一緒に仕事をさせていただいた私は、彼の涙もろくてシャイな一面をよく知っている。親友が、まだ小さい子どもを残してなくなった時のこと、「まだやりたいことあっただろうに」と親友の無念さを思い、彼は、傍でも見ていられないくらいに元気をなくしていた。

彼は、20 回近くキューバを訪れ、私たちに大きな影響を及ぼした。彼のあのくしゃくしゃ笑顔は、今頃キューバのどこを旅しているのだろう…。

去る 2016 年１月 31 日、坂戸市の北坂戸オルモにて、「故松矢先生を偲ぶ会」を開いた。彼の飾らない姿を象徴する手作りの会となり、お知らせした人たちがそのまた知り合いを呼び、知られざるエピソードが語られた。臨場された奥様も驚かれていた。

彼のキューバへの思い、遺志をどのようにつないでいくか、仲間で話していきたい。

2016 年４月７日

キューバフェスティバル実行委員会

津嘉田（つかだ）和子

CUBA レポート

革命思想が生きる医療の実践

2016・医療視察団

● 2016年4月10日~16日

福島市の「きらり健康生協」の有志が呼びかけた「医療視察団」では、ポリクリニック、リハビリセンター、ラテンアメリカ医学校等を訪問。革命思想が息づいた医療の実態を学びました。

2016 年 4 月 10 日から約 1 週間、初めてキューバに行くことができました。本来の目的は「医療と福祉について学ぶ」という事でした。

本音は、以前よりキューバ革命中心人物の一人であるチェ・ゲバラへの憧れ、そしてアーネスト・ヘミングウェイの愛した地を踏んでみたい、というミーハーな思いを抱いていたので、その夢が叶った旅でした。

カリブの島々というと「カリビアンブルーの海」「旧市街地の美しさ」が旅番組でもよく放送されています。が、その美しいヨーロッパ風の建物は「侵略された過去の証し」だという事。しかし、キューバの人たちは明るく、音楽が好きでレストランではいつも地元のミュージシャンが演奏している、通訳さんも音楽が流れるとバスの中でも体をリズムに合わせて揺らしている。

アメリカの経済封鎖のため、確かに「モノは少ない」「経済的には裕福ではない」のは事実でした。が、人としてまず必要な「医療福祉、特に予防医療の考え方と実績」「大学までの学費が全て無料」という革命当時からのゲバラやカストロたちが考えていたことが本当に繋いで実践されていました。革命前の識字率は低いし乳幼児死亡率も高く、本当に人権が尊重されていなかったのですが、現在は予防接種のレベルは日本以上です。「はしか・風疹」など予防注射がある病気は発症していません。貧しく弱い人に手を差し伸べるという革命時からの思想が貫徹されていました。

今自分にできるキューバへの支援を考え、まずは「観光」という側面からキューバの産業を応援するために周囲の友人知人に紹介できたらと思っています。また自分もキューバに行けるチャンスを願いながら。『革命は続いている』のです。

きらり健康生協・山本真由美（福島）

待望の機材が島に到着！ 米プロジェクト

CUBAPON ではキューバの米の自給率を上げる取り組みとして青年の島の稲作を支援するため「米プロジェクト」がスタートした 2011 年から、農業指導と併せて、日本外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を活用し、国際 NGO「ムンド・バッド」を通じて農業機材の整備に取り組み、発注した農機具の到着を島の仲間とともに首を長くして待っていました。

既に 4 年が経過した今年 1 月 5 日、機材がキューバの主要港であるマリエル港に陸揚げされ、5 月 2 日、島によようやく到着したとの嬉しい知らせが届きました。

待望の農業機材が入り、島の農業のさらなる前進が大いに期待されます。

CUBAPON「米プロジェクト」は 2015 年、終了しましたが、今後とも島の稲作を見守り、関連する動きについてはニュース紙上で随時報告していくこととします。

「友好の家」建設計画も前進中

青年の島日系人協会本部（友好の家）建設計画が少しずつ前進しています

島の人民権力会議に「土地の使用目的の変更」が議題としてあげられ、商業地の一部を本部建設に充てることが正式に承認されたとのこと。続いて建設計画の審査が監督署の許可が下りれば「すぐに建設にとりかかることができる」（島の日系人協会 ノボル会長談）とのこと。着工が待ち遠しい限りです。

クバポン収支及びプロジェクト収支報告

CUBAPON 2016年度 収支報告（15年度6月1日～16年度5月31日）

●収　入

会　費	129,000	43人
15寄付金①	83,970	前田様より2015年度分
15寄付金②	217,675	細谷様より**321,422円**のうち
カンパ金	151,749	ラテンフェスタ残余金寄付（松矢様より）
15借入金	0	IFCCより
計	582,394	

●支　出

会報印刷代	53,428	49号、50号
その他印刷代	46,353	チラシ、封筒、資料
送　料	86,276	会報、連絡など
事務局諸費	244,740	打合、旅費、会議等。内146,000はHP製作費
事業費	105,926	ラテンフエスタ協賛、アジア会議参加費等
14借入金返済	45,671	14年度分IFCCへ
計	582,394	

● 2015 年度は寄付金とカンパ金に支えられ特別な事業を実施できました。
● 前田恵介様の寄付金残金￥83,970 を 2015 年度収入に繰り入れました。
● 細谷久美子様からの寄付金￥321,422 の一部を収入に繰り入れました。
※ 細谷様寄付金繰越残 103,747 円（2016・5・31 付）
● 故 松矢事務局長より「ラテンフェスタ」でのカンパ集約金￥151,749 が遺されましたので収入に繰り入れました。

米自給支援プロジェクト／支援金（個人）累積収支（2016・5・1）

●収　入			●支　出		
11年度支援金	204,000	25人＋カンパ	連絡・会議費	202,358	
12年度支援金	192,000	33人＋カンパ	印刷代	254,978	報告1～5号、他
13年度支援金	193,000	29人＋カンパ	送料	65,467	
14年度支援金	157,000	27人＋カンパ	事業費	499,396	プロジェクト推進関連費
15年度支援金	141,000	34人 47口）	諸費・雑費	207,540	翻訳、交通費等
15年度支援金②	200,000	自治労富山より			
団体基金より	200,000	翻訳 通信等			
団体基金より	15,000	ポンプ修理			
計	1,302,000		計	1,229,739	

《繰　越》**72,261 円**（2016・5・31 付）
《メ　モ》
① 収支は 2011 年度からの累積計算。
② 2015 年のポンプ部品費は個人会計の事業費で支出した事業費のうち 126,896 円相当。
③ 繰越残をプロジェクト終了に伴う「報告書 Vol6」発行経費に充てることとする。

カンパ・会費納入へのご協力、ありがとうございます！

ご報告

去る１月１４日、昨年１２月に逝去されましたＣＵＢＡＰＯＮ事務局長の松矢文男さんのご遺族（息子さん）松矢健さんより、松矢文男さんの遺志として、総額 1,551,749 円の寄付金が届けられました。

寄付金には、松矢文男さんの手によるメモ書きでそれぞれ使途が記されておりましたので、その遺志に基づいて活用させて頂くこととします。

① 青年の島日系人協会本部（友好の家）建設資金追加分として：1,000,000 円
② ハバナ日系人会の活動への寄付金：400,000 円
③ ＣＵＢＡＰＯＮ事業推進寄付として：151,749 円

２０１６年5月１日
ＣＵＢＡＰＯＮ事務局長
鎌田　篤則

私とCUBA

CUBAPON20年

村上久美子（CUBAPON 会員／福島）

私がCUBAPON 友好訪問団に参加して初めてキューバに行ったのは 2002 年。「9.11 同時多発テロ」の翌年で、イラク攻撃が秒読みと言われていた時期でした。アメリカから空爆に向かう爆撃機とすれ違うのではないかと、飛行機の小さな窓から暗闇に目を凝らした記憶があります。

キューバでは「イラクは人ごとではない」、「キューバがバイオテクノロジーの研究を積極的に進めていることに対し、アメリカから生物兵器を開発していると難癖をつけられている」という話を聞き、キューバもイラクのような目に遭うのではないかと思い、戦慄しました。そして、「キューバを守りたい。キューバに助けになることを何かしたい」と思ってCUBAPON の活動に関わるようになりました。

CUBAPON を通して日本とキューバで多くの人と出会い、知らなかったことを知ることができました。英語もできない私が何を血迷ったかスペイン語の勉強を始めました。キューバの視点に立つと世界が違う形に見えてくることに気づきました。

こんな奇跡がたくさんの人に起きることを願って、これからもキューバ連帯運動に関わっていきたいと思います。

IFC ツアーは
共同出資の手配旅行社です

●アイエフシーは IFCC 国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通した友好と平和のプログラムを提案します。
●アイエフシーは文化、政治、福祉などの分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
●アイエフシーはキューバ、メキシコ、ベトナム、中国、ドイツ、デンマーク、ロシア、その他のアジア、欧州などでプランニングを行います。

東京都知事登録旅行業第 3757 号
〒162－0801　東京都新宿区山吹町 333 番地
辻ビル 405
TEL03-3268-6014　FAX03-3268-6079

キューバ共産党第7回大会開かれる

DOMINGO 17
ABRIL 2016
La Habana
Año 58 de la Revolución
EDICIÓN ÚNICA
CIERRE: 1:00 A.M.
AÑO 52
No. 92
20 ctvs
Granma
"El hombre crece con el trabajo que sale de sus manos"
ÓRGANO OFICIAL DEL COMITÉ CENTRAL DEL PARTIDO COMUNISTA DE CUBA
CONGRESO PCC
En Cuba tenemos un Partido único, que representa y garantiza la unidad de la nación cubana
EN ESTA HORA Y SIEMPRE, EL PARTIDO DE LA NACIÓN CUBANA.
FOTO: ESTUDIOS REVOLUCIÓN

← 第７回党大会の開催を伝えるグランマ紙（４月 17 日付）。見出しは「キューバには、キューバ国の団結を示し、かつ確かなものとする唯一の政党がある」。

４月 16 日から 19 日、キューバ共産党は第７回大会が開催されました。

大会では、先立ってキューバ共産党国際部から CUBAPON を含め各国の友好団体に送付された以下のメッセージの通り、2030 年までの発展戦略を中心に討議されました。

また、最終日には、フィデル・カストロ前国家評議会議長が演壇に立ち、「大会の場で話しをするのはおそらく最後の機会となる」として自らの想いを語り、最後にラウル・カストロ議長の不断の努力を讃えました。

友好的政治・社会勢力へのキューバ共産党メッセージ

４月 16 日～19 日、キューバ共産党は第７回大会を開催します。その基本的な目的は、第６回大会で決定された経済社会路線の遂行状況を評価することにあります。さらに 2030 年までの国の発展戦略とキューバの経済・社会モデルの概念的規定について討議し承認します。

大会は、世界的危機と世界的な地政学的矛盾の深刻化を特徴とした国際環境の中で開かれます。ラテンアメリカでは、大陸の革命的・民主的・解放的課程と地域統合勢力に対する帝国主義と右翼の反撃が強まっています。

このような情勢下、キューバ革命は不変の進路を堅持しています。2011 年からキューバ国民の多数の支持のもと、豊かで持続的な社会主義の建設をめざす経済モデルの刷新が進んでいます。

同時に、2014 年 12 月から対米関係正常化の複雑な課程が進んでいます。それは同国政府と文明的な共存を実現させることを目指すものです。またそれは、2014 年１月、ハバナでの第２回 CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）首脳会議が宣言したように我々の地域を平和地帯にするためのキューバと他のラテンアメリカ・カリブ諸国の努力と一致させた形で行うものでもあります。

キューバ共産党はこの正常化課程が我々に課す挑戦を自覚しています。私たちは、米国の有力な勢力がキューバ革命の基盤を浸食し、接近と直接的影響を通じて我が国の政治制度を転覆させる目的を持ち続けていることを知っています。その意味で、バラク・オバマ大統領のハバナ訪問はキューバに対するこの新たな戦術を不可逆的にする決意を確認するものであったと考えます。

対米関係正常化は我々が行ってきた思想の闘いのうえで新たな道を開くことになります。それは連帯と個人主義、包含と蔑視、モンロー主義とホセ・マルティ精神、搾取と社会正義、新自由主義的支配と主権およびラテンアメリカ統合との間の闘いです。

我々がここまで到達できたのは、帝国主義の軍事・経済・文化力に対するキューバ国民の団結と抵抗、そしてフィデル及びラウル・カストロ同志の賢明な指導のおかげでした。それに加えて、我々の原則への忠実性、対外政策の一貫性、世界の正しい大義との連帯のおかげでもありました。

我々が強調しなければならないのは、キューバ国民の勝利は国際連帯運動と切り離すことができないということです。国際連帯運動は、「５人の英雄」解放のための闘いなどの重要な闘いに寄り添ってくれました。私達は国際連帯を永遠に感謝し、今はそれがかつてないほど重要であると考えます。

キューバ国民とその組織された前衛は、米国の経済・貿易・金融封鎖との闘いを続けます。グアンタナモ湾で米海軍基地が不当に占拠する領土に我が国の国旗が翻るのを見るまで、私たちは休むことはありません。引き続き、干渉計画とキューバ国内の反革命グループへの資金援助、そして米国政府の予算によって賄われ、我が国の主権を侵害する不法なラジオ・テレビ放送を告発し続けます。

最近、キューバ革命の歴史的指導者、フィデル・カストロ総司令官が述べたように、高潔で献身的な我が国の国民は、栄光も権利も、そして教育、科学、文化の発展によって得た精神的豊かさも放棄することはありません。私たちは、帝国からの贈り物など何も必要ないし、これからも必要としません。今度も平和と兄弟的関係への決意を堅持し、常に我々の歴史に忠実であり続けます。

キューバ共産党中央委員会国際部

● 革命指導者フィデル・カストロ前議長による第７回党大会最終日の演説

困難な時代、いかなる人民をも指導するのは超人的な努力だ。それなくして変革は不可能だ。革命的人民に選ばれ権限を委託されるという、私たち自身の自覚の賜物である革命家としての歓びから生じる、人生の中でかつてない栄光に浴した代表者たちが 1000 人以上の集まっている、この大会はそういう場である。

なぜ私は社会主義者になったのか？もっとはっきり言おう。なぜ私は共産主義者に変わったのか？この「共産主義」という言葉は、労働や才能、人的活力が生み出した全ての物質的利益が収奪されて以降、その奪われた側の貧しい者たちを搾取する特権を得た勢力によって歴史的に歪められ、悪しざまな言われ方をしてきた。こうした矛盾の中で人々が生きるようになってから際限なくときが経っている。あなた方にはこのような説明は無用だとわかっているが、耳を傾ける人もおそらくいるだろう。

私が無知でもなければ過激派でも盲目でもなく、経済学を学ぶうちに私が勝手に思いついたイデオロギーでもないことを、より理解してもらえるよう、単純に話そう。

私が学生で、法律と政治学でひどく苦労していた頃、私には家庭教師はいなかった。20 才くらいの頃はスポーツと山登りに夢中だったが、その後のことだ。教えてくれる家庭教師もなしにマルクス・レーニン主義の理論だけ学習したに過ぎず、それでソビエト連邦共和国を全面的に信用していた。革命後 70 年で、レーニンの事業は侮辱された。なんという歴史の戒めだろう！ロシア革命のような重大事が再度起こるのに、また、植民地主義とそれと切り離せない一味である帝国主義に対する闘いの壮大な軌跡である社会主義革命の別の例を人類が目にするのに、もう 70 年待つことはないと断言できる。

とは言え、おそらく今日、地球上で差し迫る最大の危機は、地球という星の平和を脅かし、地上で人類が生きられないようにしてしまうほどの破壊力を持つ最新鋭の兵器だ。

ディノサウルスが絶滅したように人類も絶滅するかもしれない。新たな賢いやり方を見出すか、若しくは、多数の科学者たちが認識しているように、太陽の熱の高まりで太陽系とその惑星が全て溶けてしまうまでには、おそらく時間がまだあるだろう。
科学者たちのさまざま理論は我々のような素人はわからないものだが、今生きている人類はもっと知らなければならないし、現実を見なければならない。遠い未来に人類が生き延びるとするならば、その未来の世代はまず大きな問題を克服しなければならないが、我々よりもずっと理解していることだろう。必要な飲料水や最低限の資源にさえひどく困窮している現実に直面している何億人もの人々が、一体どのように食べていけるだろうか？

あなた方の何人か、いや、おそらく多数が、この演説のどこに政治的なテーマがあるのかと自問しているだろう。私がこんなことを言うのはつらいのだということを分かってほしい。しかし、政治はここに、この言葉の中にあるのだ。多くの人々がこの現実に心を砕くよう、我々が、禁じられたリンゴを食べてしまったアダムとイブの過ちを繰り返すことがないよう願ってやまない。充分な技術もない、雨も降らない、貯水池もない、砂に覆われている程度にしか地下水の貯えもない、アフリカの渇ききった人々を誰が食べさせていくのか？地球温暖化に関する条約に署名した政府がどう答えるか、見ていこう。

こうしたテーマについて継続的に考えていかなければならない。それに私は必要最低限のことより他に長々と話を続けたくはない。

間もなく私は 90 才になる。今まで一度もこんな風に考えたこともないし、努力の成果でもなければ運命のいたずらでもない。もうすぐ他のみんなと同様になるだろう。誰しも順番が来るわけだが、熱意と自尊心をもって汗を流せば、人類が必要としている物質的、文化的財産を生みだすことができることの証としてこの地球上にキューバの共産主義の思想は残るだろう。そのために我々は休むことなく闘わなければならない。我々のラテンアメリカと世界の兄弟たちに、キューバ人民は勝ち抜くと伝えなければならない。

私がこの場で話すのは、おそらく最後となるだろう。私は大会における全ての候補者に賛成票を投じた。大会への招待と、話を聞いてくれた名誉に感謝する。皆さんを祝福する。まず最初にラウル・カストロを。彼のすばらしい努力に対して祝福を送る

我々は前進する。そして精通すべきことに精通する。マルティ、マセオ、ゴメスのように極めて忠実に、団結した力で、止まることのない前進を勝ちとろう。

（訳：村上久美子）

Información

ケニア・セラーノ ＩＣＡＰ総裁来日（予定）

第4回全国キューバ友好の集い

「第４回全国キューバ友好の集い（仮）」がケニア・セラーノ ICAP 総裁を迎えて予定されています。ご希望の方は、ご連絡下さい。詳細をご案内します。また HP でも案内する予定です。

まだ先ですが、他の予定を入れないで、今からご準備下さい。

と　き：　9月 25 日（日）　13：00～17：00
ところ：　未定（東京）

経済封鎖反対！

CUBAPON「研究会議」を企画します

CUBAPON では、ケニア ICAP 総裁が来日するこの機会を活かし、ケニア総裁を講師に迎えて「第７回キューバ共産党大会を受けての研究会議（仮称）」の開催を計画しています。

オバマ米国大統領のキューバ訪問は一つの時代の幕開けではありましたが、国交正常化への道は今なお厳しいものがあります。キューバ共産党大会で何を決め、どこへ向かおうとしているのか、ケニア総裁をまじえ意見交換したいと考えて、現在、関係者と相談しているところです。期日、場所は決まり次第ご案内します。

尚、この行事のため、CUBAPON は ICAP ケニア総裁の来日経費の一部をカンパすることにします。同封の郵便振込用紙でのカンパの振込にご協力をお願いします。

2016 キューバ友好訪問団　ぜひご参加下さい

2016年11月22日～29日（8日間）

● 魅力の２コース(２日目)

ゲバラゆかりの地サンタクララ、または「米プロジェクト」をはじめ日系人協会と温かい友情を築いてきた青年の島の２コースから選択できます。

● グアンタナモを視察

「グアンタナモ米軍基地が返還されキューバの旗が掲げられるまで、国交正常化とは言えない」とキューバが主張する、その地を訪れ、米軍基地の実態を視察します。

● ニコ・ロペス党学校へ

ニコ・ロペス党学校を訪れ、アメリカとの国交回復、第７回党大会と、激動の中にあるキューバの「今」と進む方向を探ります。

※ 現地日程は現在調整中ですので変更になる場合があります。

日数	月日	都市名	スケジュール	食事
1	11/22（火）	羽田発 ハバナ着	午後：空路、トロントへ 国際線乗継ぎ、ハバナへ	朝：機 昼：機 夕：×
2	11/23（水）	コース別	ゲバラゆかりの地・サンタクララコース 青年の島・稲作支援地視察コース	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	11/24（木）	ハバナ	CTC、ICAP表敬訪問 ニコ・ロペス党学校訪問　他	朝：○ 昼：○ 夕：○
4	11/25（金）	ハバナ ↓ サンティアゴ・デ・クーバ ↓ ハバナ	空路、サンティアゴ・デ・クーバへ ◆ モンカダ兵営など革命史跡見学 ◆ 農場視察	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	11/26（土）		◆ ポリクリニック視察 ◆ グアンタナモ米軍基地視察 空路、ハバナへ	朝：○ 昼：○ 夕：○
6	11/27（日）		◆ 世界遺産 ハバナ旧市街散策 ◆ 革命広場　など	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	11/28（月）	ハバナ発	早朝、空路帰国の途 トロント経由、羽田へ	朝：○ 昼：機 夕：機
8	11/29（火）	羽田着	午後：羽田着 お疲れさまでした	昼：機